



2007年度
第13回 FDフォーラム

大学教育と社会

——FD義務化を控えて——

2008年3月8日(土)～3月9日(日)
立命館大学 衣笠キャンパス

テーマ

大学教育と社会

—— FD義務化を控えて ——

基調講演

基調講演講師

寺崎 昌男氏 立教大学 大学教育開発・支援センター顧問、東京大学・桜美林大学名誉教授、大学教育学会会長

学士課程・大学院を含めて、カリキュラムのあり方、授業法の改善、アドミッション・システムと卒業判定のあり方等が、あらためて問われている。この問いの中心には、学士学位授与に値する水準を大学はどのように保障できるかという課題が据えられ、加えて、少子化・全入のもとで予想される現実問題に大学はどのように対応しうるのかという問いも加わっている。しかも答申等には、対応の最終責任はすべて各大学に帰するという論理が通底しているように思われる。

厳しい状況と鋭い問いのもとで、広い意味における大学の教育力の総体が問題となるのは当然である。その力を支える大きな要因が、教職員の意欲と見識と能力にかかっていることも疑うことはできない。

基調講演では、高等教育・大学に関する政策分析の上で、下のような論点について問題を提起したい。

- 1) 「大学の大学たる根拠」をどう考えるか。
- 2) 国際化と生涯学習化のもとにおける教養教育と専門教育・資格教育の関連
- 3) 「義務化」されているFD・SDの課題と具体像

シンポジウム

シンポジスト

中村 正氏 学校法人立命館 常務理事〈教学担当〉

飯吉 弘子氏 大阪市立大学 大学教育研究センター専任研究員 准教授

滝 紀子氏 河合塾 教育研究開発本部 教育研究部長

コーディネーター

河原地 英武氏 京都産業大学 教授、教育エクセレンス支援センター 副センター長、
第13回FDフォーラム企画検討委員会 副委員長

21世紀に入って社会の変化は、その多様性と複雑化の度合いを益々強めている。大学教育におけるFD活動の推進も、そのような変化と決して無縁ではなく、大学教育と現代社会の関係はどうあるべきかをここで改めて問い直してみたい。一口に社会といっても、「国際社会」、「知識情報化社会」、「企業社会」、「地域社会」、「高齢化社会」など様々な側面がある。こうした多様な社会のニーズに対し、大学教育はどう応えていくことができるのか、また、大学教育の側も社会に対し何を求めているのか——この双方向的な視点から、大学教育と社会に関する報告と意見交換を行っていききたい。

ご 注 意

基調講演とシンポジウムについては、2つの会場（第1会場：以学館1号ホール、第2会場：以学館4号教室）を使用するため、第1会場が満員となり次第、第2会場に移動をお願いすることになりますが、悪しからずご了承ください。なお、第1会場（メイン）の様子は、第2会場でモニターを通じて視聴頂けます。

タイムスケジュール

12:00 }	受付時間(12時 受付開始)
13:00 }	<p>会場校挨拶</p> <p>川口 清史氏 立命館大学 学長</p>
13:10	<p>開会挨拶</p> <p>運営責任者挨拶</p> <p>木野 茂氏 第13回FDフォーラム企画検討委員会 委員長、立命館大学 大学教育開発・支援センター 教授</p>
13:10 }	基調講演
14:10	休憩
14:30 }	シンポジウム
17:00	
17:15 }	情報交換会
19:00	

第1ミニ・シンポジウム

FD組織化への挑戦と課題

大学設置基準が改正され、大学においても、FDがいよいよ義務化される。そのFD制度化の下で、私たち大学人は、それぞれの大学の実状に応じた実質的なFDを、主体的に獲得していくことが求められている。FDは、設置基準では、教育に関わる「組織的」な「研修・研究」による「改善」と規定されている。そこで、まず設置基準に含まれるそれらの文言の一つ一つをどう捉えたらよいのか、とりわけ、「組織的」という点をどのように捉えれば、FDを実質的に私たち自身のものにしていくことができるのかという点にスポットを当ててみたい。さらに、そこで浮き彫りにされるであろうFD像に即して、実際のFD活動をどのように表現すれば、言い換えれば、それをどう評価していけば、社会に対して説明責任を果たしていけるのかについても考えてみたい。

- シンポジスト **山田 剛史氏** 鳥根大学教育開発センター 講師
小田 隆治氏 山形大学高等教育研究企画センター 教授
沖 裕貴氏 立命館大学大学教育開発・支援センター 教授
 指定討論者 **田中 每実氏** 京都大学高等教育研究開発推進センター 教授(センター長)
 コーディネーター **大塚 雄作氏** 京都大学高等教育研究開発推進センター 教授

第2ミニ・シンポジウム

大学の授業は社会の声に応えることができるのか？
—学生と教員の声—

授業改善は学生の利益のために行われるということには異論はなからう。しかしながら、ともすれば学生=顧客的発想となり、学生におもねる授業改善につきがかりかねない。そこで学生を中心に据えた授業改善の対極として、どのような学生を社会に送り出すべきなのかという観点からの授業改善を考えることに意義があろう。授業を受けることによって、学生は何を身につけることができるのかという観点からの授業改善である。大学が社会の声に迎合する必要はないが、それでも社会の存在を無視して大学は存在しない。社会と授業のあり方をめぐって、教員、有志学生、フロアの参加者ととも今年も熱い議論を展開したい。

- シンポジスト **松浦 善満氏** 和歌山大学教育学部 教授・同附属小学校長
原 清治氏 佛光大学教育学部 教授・通信教育 部長
木野 茂氏 第13回FDフォーラム企画検討委員会 委員長、立命館大学 大学教育開発・支援センター 教授
 情報提供者/協力者 **立命館大学・佛光大学 学生有志**
 コーディネーター **松本 真治氏** 佛光大学文学部英米学科 准教授

第3ミニ・シンポジウム

地域社会の中の大学

近年、「地域社会に開かれた大学」が意識されている。その基本的目標は、大学の「資源」を地域社会の発展に役立てることにある。同時に、地域社会との連携によって、教育研究の新しい内実が獲得される。従来のキャンパスでの講義中心の教育研究を演繹的と定義すると、地域社会との連携による現場・フィールド中心の教育研究は帰納的と定義できよう。このことは、大学の教育研究の地平が広がることを意味する。これにより、理工系と文系系、演繹的教育と帰納的教育の相互補完的關係に基づく、バランスある学問の発展が期待される。本ミニ・シンポジウムでは「地域社会の中の大学」に焦点を当て、より社会的妥当性を持つ大学教育のあり方を探りたい。

- シンポジスト **筒井のり子氏** 龍谷大学社会学部 教授
奈良 英久氏 立命館大学共通教務課ボランティアセンター 職員
渡辺 雄人氏 同志社大学大学院総合政策科学研究科 研修生
唐沢 民氏 同志社大学大学院総合政策科学研究科 ソーシャル・イノベーション研究コース博士前期課程 2年次
 コーディネーター **河村 能夫氏** 龍谷大学経済学部 教授、教学部長

ご 注 意

- ・分科会への入場については原則として参加申込フォームにて事前に申込をされた方に限ります。
- ・FDフォーラム第2日目も、参加証を必ず携帯し、参加証で指示されたとおり、指定の分科会へ開始10分前までに入場いただきますようご協力をお願いします。
- ・分科会(午前の部)開始時刻までに入場を完了されない場合は、「ご欠席」と判断し、残席を他の当日参加希望者にお譲りする場合があります。

分科会 プログラム 各定員 40名

第1分科会

キャリア教育の実践と課題
—「社会」を意識する学生の育成を目指して—

今回のFDフォーラムのキーワードである「社会」は、大学の先にあり、多くの学生にとっては未知の場である。その未知の場を学生に意識させることを主眼とする「キャリア教育」をテーマとした本分科会では、海外(イギリス)におけるキャリア教育の実態、女子大学におけるキャリア形成支援、キャリア教育と教養教育の融合、といったトピックを報告者に提供して頂く。現代GPIに選定されたプログラムも紹介しながら、学生に刺激を与え、主体的な人生設計を促す方策等について、積極的に意見交換することを目的としたい。

- 報告者 **沖 清豪氏** 早稲田大学文学学術院 准教授
榎村 久子氏 京都女子大学現代社会学部 教授
渡辺 孝義氏 同志社大学キャリアセンター 所長
 コーディネーター **金谷 益道氏** 同志社大学文学部英文学科 准教授

第2分科会

グローバル化する社会に対応した大学教育

グローバル化する社会における大学教育のあり方について議論する。前年度は、「国際感覚をもった学生の育成」の前提となる「大学教育の国際化」について、課題と実践例を紹介した。今年度は、最初に、実業界の報告者から、グローバル化が進む日本社会が大学教育に期待していることを報告して頂く。次に、大学側の2名の報告者から、グローバル化する社会のニーズに応えられる人材を養成するプログラムを実施している大学について、現代GPを通じた取り組みや大学国際戦略による取り組みなどの実際を紹介して頂く。社会サイドの期待と大学サイドの取り組みを聞いた上で、フロアを含めた意見交換を行いたい。

- 報告者 **小林いずみ氏** 社団法人経済同友会 副代表幹事 教育問題委員会委員長、メリルリンチ日本証券株式会社 代表取締役社長
木田 成也氏 立命館アジア太平洋大学 教学部 次長
森 純一氏 京都大学国際交流センター長 教授
 日本学術振興会 大学国際化戦略委員会 委員
 コーディネーター **三浦 潔氏** 京都文教大学人間学部現代社会学科 教授

第3分科会

中小規模大学のFD交流

ユニバーサル段階の高等教育をイメージし、さらにはグローバル化や日本固有の大学の問題に対応していくには、教育の改善・改革を恒常的に推進し展開するための組織的活動、加えてそのスピードや組織性が必要になる。その組織そのものは、規模、歴史、構成員、教育内容など、様々な要因が絡み合い、独立した個性的なものとして存在している。本分科会では、大学にはその組織の特徴に合ったFD活動があるという認識のもと、「規模」という枠組みを利用してFDの多様性を共有し合い、自律性と主体性を最大限に重視するFDの力学を探る機会にしたい。

- 報告者 **美馬のゆり氏** 公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授
小笠原正明氏 東京農工大学 大学教育センター 教授
 報告者兼
 コーディネーター **高橋 伸一氏** 京都精華大学 人文学部 教授、教務部長

第4分科会

短期大学の可能性を拓く

「全入」時代と言われる厳しい高等教育をめぐる環境の下で、短期大学は学校数、学生数とも減少をしており、4年制大学に比してより厳しい状況におかれている。そのような中で、短期大学は、高等教育の完成教育機関としての役割、専門職業人養成の役割、地域の生涯学習拠点としての役割等、様々な役割を果たすことが求められている。このような状況の下で個別短期大学は、その建学の精神、教育理念に基づいた教育の充実に向けて様々な改革に取り組んでいる。本分科会では、それぞれの役割の中で改革を進めている短期大学から具体的な事例報告を行い、参加者とともに短期大学の可能性について考えていくことを目指す。

- 報告者 **中野 正明氏** 華頂短期大学 学長
美濃 順亮氏 京都光華女子大学短期大学部 教授
竹内 康弘氏 京都女子大学短期大学部 法人事務室長
 コーディネーター **今井 薫氏** 京都産業大学法務研究科 教授

第5分科会

「学び」の心と初年次教育

全入時代における学力低下は、人的財産をフルに活用しなければならない日本の置かれている立場において極めて深刻な問題である。この学力低下に対して、初年次教育において、「学び」の楽しさ、動機付け、自己の将来像等、を獲得させることと同時に学力アップを図るべく、導入教育、自校教育、リメディアル教育が行われてきた。この分科会では種々の取り組みを参考例としながら、今後の初年次教育のあり方を活発に議論する場としたいと考えている。

- 報告者 **四ツ谷晶二氏** 龍谷大学理工学部 教授 理工学部長
青木克比古氏 金沢工業大学工学基礎教育センター次長 教授
沖花 彰氏 京都教育大学 教授
北岡 崇氏 福山女学園大学国際コミュニケーション学部 教授
 コーディネーター **巻本 彰一氏** 京都教育大学 准教授

第6分科会

教養教育と第二(初修)外国語教育

大学設置基準第19条に「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」とあるように、大学教育において教養教育は重要な地位を占める。この教養教育を担う教員には、かつて必修であった第二(初修)外国語を教えていた多くの教員がいる。現在、彼らは、文学、歴史、哲学、比較文化等々と第二(初修)外国語を教えている。また、逆に、教養科目を専門とする教員が、教養科目としての外国語を教えるという事例も多い。このような現状を考え、本分科会では、教養科目と第二(初修)外国語を担当している教員の現状分析を行うとともに、教養教育のさらなる促進を目指したい。加えて、第二(初修)外国語の独自性を様々な視点から考え、意見を交換する場でありたい。

- 報告者 **畑 公也氏** 神戸薬科大学薬学部 准教授
福島 祥行氏 大阪市立大学大学院文学研究科 フランス言語文化教室 准教授
松尾 剛氏 立命館大学法学部 准教授
 コーディネーター **秋澤 雅男氏** 京都薬科大学一般教育 准教授

第7分科会

FD義務化時代の教員研修のあり方

大学設置基準の改正により、大学院に続いて学部でもいよいよFDが義務化され、各大学は「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する」ことが求められている。すでにほとんどの大学で、何らかの形でFDに関連した活動が行われているが、その成果を実際にどう授業改善に結び付けていけるかは、個々の教員に任されている面が多く、組織的な支援を行っていると言える大学はまだ少ないものと思われる。本分科会では、このような状況をふまえ、大学が組織として教員研修をどのように行っていくべきかを探ってきたい。実際にFDに取り組まれている方に多く参加していただけることを願っている。

- 報告者 **金剛 理恵氏** 立命館大学 大学教育開発・支援センター 職員
佐藤 浩章氏 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長/准教授
 コーディネーター **浅若 裕彦氏** 大谷大学文学部 准教授

第8分科会

授業支援の新しいあり方
—大学としての授業支援の組織・体制作り—

来年度から大学におけるFDが義務化されるが、現在までも、様々な方法による授業支援が行われている。例えば、公開授業、授業評価アンケートの活用、授業コンサルティング、初年次教育、大学院生や学部生が関わる授業支援といったように、教員同士の共助や職員との連携、学生参画など興味深い実践が展開されている。本分科会では、今後、大学としてどのような形で授業支援していくべきなのか、組織的に支援していくにはどのようにすればいいのか、といった問題点について考える。そこで、先駆的な実践事例の報告をもとにしながら、フロア全体で問題意識を共有し、活発に議論することで、各大学の参考になるようにしたい。

- 報告者 **神藤 貴昭氏** 徳島大学大学開放実践センター 准教授
水越 敏行氏 関西大学特別顧問(授業支援)、大阪大学名誉教授
藤田 哲也氏 法政大学文学部 准教授
岩崎 千晶氏 関西大学大学院総合情報科学研究科 博士後期課程 3年次
 指定討論者 **村上 正行氏** 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター 准教授
 コーディネーター **國安 俊彦氏** 京都外国語大学・短期大学 専任講師

第9分科会

大学における総合的な学生支援と学生相談体制

最近、大学教職員は、学生の学力低下、意欲低下、対人関係の希薄さ等を痛感し、さらには、学生の不登校傾向、課外活動の停滞、進路未決定、休学/退学等の問題に直面している。学生相談の現場でも相談件数の増加と、自主来談を待っても対処できない等、対応に苦慮する相談の増加との、いわば量的・質的両方の課題を抱えている。このような状況下で大学の全教職員は、学生支援・学生相談を教育の一環として捉え直し、今こそ一体となって大学全体の学生支援力の強化に努めるべきであろう。本分科会の報告者は、大学における総合的な学生支援と学生相談についての研究や現場での試み等の話題提供をする。参加者との熱いディスカッションを展開したい。

- 報告者 **齋藤 憲司氏** 東京工業大学保健管理センター 准教授
市来 真彦氏 神奈川工科大学 メンタルヘルスアドバイザー
山中 淑江氏 立教大学学生相談所 カウンセラー
 コーディネーター **桐野由美子氏** 京都ノートルダム女子大学生生活福祉文化学部 教授

水越敏行先生の役職名について、誤植がございました。お詫びして訂正します。

正) 関西大学特別顧問(授業支援)、大阪大学名誉教授
 誤) 関西大学名誉教授

タイムスケジュール

9:30 }	受付時間(9時30分 受付開始)		
10:00		ミニ・シンポジウム/分科会【午前の部】	
		第1ミニ・シンポジウム	第1分科会 第6分科会
		第2ミニ・シンポジウム	第2分科会 第7分科会
10:00 }		第3ミニ・シンポジウム	第3分科会 第8分科会
12:00			第4分科会 第9分科会
			第5分科会
12:00 }	休憩		
13:00		ミニ・シンポジウム/分科会【午後の部】	
		第1ミニ・シンポジウム	第1分科会 第6分科会
		第2ミニ・シンポジウム	第2分科会 第7分科会
13:00 }		第3ミニ・シンポジウム	第3分科会 第8分科会
15:00			第4分科会 第9分科会
			第5分科会

概要

申込期限

2008年2月10日(日)

申込方法

お申し込みは、後掲URLの「参加申込フォーム」をご利用願います。2月末に、事務局より「参加証」をお送りいたしますので、当日必ず持参願います。参加費につきましては当日会場にて徴収(領収書発行)させていただきます。

<http://www.consortium.or.jp/consortium/fd/fdindex.html>

※当日の参加申し込みは、会場の混み具合によって受付をお断りすることがあります。

※立命館大学には駐車できません。

また、周辺にも駐車場はほとんどありませんので、公共交通機関をご利用頂き、ご来場願います。

参加費

参加費区分	情報交換会含む	情報交換会除く
(財)大学コンソーシアム京都 加盟大学・短期大学教職員	5,000円	3,000円
(財)大学コンソーシアム京都 加盟大学・短期大学学生	1,000円	無料
(財)大学コンソーシアム京都 非加盟大学・短期大学教職員、一般	7,000円	5,000円
(財)大学コンソーシアム京都 非加盟大学・短期大学学生	2,000円	1,000円

第13回
FDフォーラム
企画検討委員会

- 委員長** 木野 茂【立命館大学 大学教育開発・支援センター 教授】
- 副委員長** 河原地 英武【京都産業大学 教育エクセレンス支援センター 副センター長】
- 委員** 秋澤 雅男【京都薬科大学 一般教育 准教授】
浅若 裕彦【大谷大学 文学部 准教授】
大塚 雄作【京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授】
金谷 益道【同志社大学 文学部英文学科 准教授】
河村 能夫【龍谷大学 経済学部 教授、教学部長】
桐野 由美子【京都ノートルダム女子大学 生活福祉文化学部 教授】
菅野 瑞治也【京都外国語大学 キャリア英語科 教授】
高橋 伸一【京都精華大学 人文学部 教授、教務部長】
巻本 彰一【京都教育大学 准教授】
松本 真治【佛教大学 文学部英米学科 准教授】
三浦 潔【京都文教大学 人間学部現代社会学科 教授】





会場案内



立命館大学 衣笠キャンパス

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

JR・近鉄京都駅	市バス50/快速205にて(約35分)「立命館大学前(終点)」下車 市バス205にて約35分、「衣笠校前」下車、徒歩10分 JRバスにて約30分、「立命館大学前」下車
JR円町駅	市バス快速202/快速205にて(約10分)「立命館大学前(終点)」下車 市バス205にて約10分、「衣笠校前」下車、徒歩10分 JRバスにて約10分、「立命館大学前」下車
阪急電車西院駅	市バス快速202/快速205にて(約20分)「立命館大学前(終点)」下車 市バス205にて約20分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
阪急電車河原町駅 (四条河原町)	市バス12/51にて(約40分)「立命館大学前(終点)」下車
京阪電車三条駅	市バス15/59にて(約30分・市バス15は終点)「立命館大学前」下車
京福電車等持院駅	徒歩10分

お問合せ

財団法人 大学コンソーシアム京都 FDフォーラム担当 fd-13@consortium.or.jp
TEL. (075) 353-9100 FAX. (075) 353-9101 ※ (日・月を除く 9:00~17:00)